

まちづくりの足跡



まちには歴史があります。その姿は時代によって変わっていますが、よりよいまちにしたいという人々の思いは共通しています。史跡やエピソードとともに、それを辿ってみましょう。

孫 絵の展示会があって、まちの風景を描くの。何を描いたらいいかなあ。

爺 そうだね。まちには自慢できる風景がいろいろあるね。一番好きな場所はどこだい。山古志村だったら棚田の風景、中之島町は信濃川の桜堤、越路町にはホテルがある清流、栃尾市には上杉謙信公ゆかりの秋葉神社や城山があるし、見附市の大平森林公園もあるね。三島町の丸太早切り選手権といったイベントも絵になるよ。小国町のログ製品など、地域の産業でもいいね。お前が興味もてるものは何だい。

孫 長岡だったら悠久山かな。花火大会もいいし、迷うなあ。

爺 それじゃあこの機会に、まちをじっくり見て回るのはどうかな。爺ちゃんもつき合うから、一緒に歩いてみよう。

孫 お花見のときは悠久山の桜がきれいだったね。

爺 ここに桜や松、杉の木を植えたのは、長岡藩九代藩主牧野忠精だよ。いまのような公園になったのは、それからずっと後だそうだ。地元の人たちがお金を出して協力しあい、みんなの公園にしたんだよ。

孫 お山には、蒼柴神社や招魂社があるね。こ

れは古いものなの？

爺 蒼柴神社は江戸時代に建てたものだよ。招魂社は戊辰戦争と西南戦争で亡くなった長岡藩土ら関係者を祀っているところで、明治時代につくられたんだよ。

孫 戊辰戦争って、江戸時代から明治になるときの戦争だね。

爺 よく知っているね。幕府側と薩摩、長州藩を中心にした新政府軍の戦いで、この時に長岡藩を率いたのが藩の家老だった河井継之助さ。

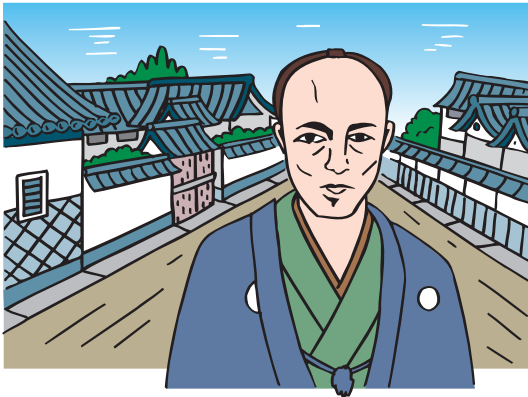
孫 その人はどんな人なの。

爺 江戸時代の終わりの長岡藩を大改革した人だ。江戸時代は幕府が中央政府だったけれど、藩ごとにきまりをつくったり、産業を興したり、独自に兵器を持ったりしていたんだ。継之助は戊辰戦争では長岡藩の「武装中立」を訴えたんだが、新政府軍には聞き入れられず戦争になったんだ。

孫 武装中立って、どっちにもつかないってことかな。

爺 そうだよ。長岡藩は、どの陣営からも独立していたいということだね。継之助は陽明学を学び、長崎や横浜にも出かけて西洋事

情を知った。外国商人とも交流したそうだが、こうした経験が継之助に影響を与えたんだね。明治政府とも幕藩体制とも別の藩のあり方を考えていたのかもしれない。借り物ではなくて、地元にあう仕組みを築いていこうという気持ちは大切なことだね。



活路を教育に求める

- 孫 それで戦争はどうなったの。
- 爺 政府軍に負けて、継之助は亡くなる。長岡藩は経済的に大変な状況になってしまったんだ。
- 孫 米百俵の話は、戊辰戦争の後で困ったときのことだよな。
- 爺 こばやしとらさぶろう 小林虎三郎も長岡藩士で江戸へ出て勉強し、日本の開国を訴えていた人だよ。彼も新しい国のあり方を探していたんだ。そのためにも、人を育てることが肝心だと考えていたんだね。
- 孫 困っているときだから、お米が欲しい人が多かったと思うなあ。
- 爺 教育は将来のために大切なことだから、我慢したんだよ。この時の国漢学校の流れをくんだ長岡洋学校（現在の長岡高校）などから、たくさんの優れた人材が育った。

越路町出身の哲学者^{いのうええんりょう}井上円了も、長岡洋学校で学んだ一人だよ。円了は東洋大学の前身の哲学館を創設した人で、当時の学界の傾向をするどく批判し、西洋の学問のうけうりをやめて、生きた学問を目指せと呼びかけた先覚者だ。

- 孫 教育は後にならないと形がみえないけれど、社会の基本づくりなんだね。
- 爺 国漢学校の方に米のお金をまわせたのは、たくさんの人が虎三郎の掲げた教育の大切さを理解して、その決断を応援したってことだよ。
- 孫 こういう歴史があるということは、まちの誇りだね。
- 爺 教育への貢献といえば、幕末に見附市に生まれた大橋一蔵^{おおはしかずぞう}も忘れてはいけないよ。彼は弥彦村に弥彦明訓校を創設し、その名前は今の新潟明訓高校に継承されているんだよ。青少年の教育に尽くし、その後北海道へ渡って開拓を進めた人だ。晩年まで貧しい農民を救うために努力を重ね、県内出身の北海道移民の受け入れに奔走したんだよ。彼が情熱を傾けた教育と開拓事業は、どちらも基盤づくりだよ。
- 孫 調べたら、地域にまだたくさんの歴史がありそうだね。
- 爺 三島町にも、学校づくりのいい話があるよ。大正時代にそれまであった三つの小学校が一つに統合されたけれど、しばらく古い校舎に分かれて授業していたそう。それでは不便だし、教育効果も心配だという声が上がってきた。そして学校関係者や住民が熱心に働きかけて、当時では珍しい鉄筋コンクリートの新校舎が建ったんだよ。この学校は、まちの規模からみると全国にも類のないほど立派なものだったそう。三島町の教育を大切に作る気質が分かる出来事だね。



人が変わると地域もかわる

- 孫 信濃川の河畔に来たね。昔は信濃川は洪水があつて困つたんだつてね。
- 爺 長野県などから新潟県を流れる日本一の大河だからね。3、4年に一度は洪水被害を受けていたらしい。それを防ごうとしてつくつたのが大河津分水路だ。
- 孫 その工事は何度も中断されたんでしょう。
- 爺 なにしる大工事だからね。川の流域、県、国が協力しなければ難しい。中之島町出身の政治家・大竹貫一おおたけかんいちは、刈谷田川改修や大河津分水の実現など、治水事業にたいそう尽力した人だ。こうしたたくさんの人たちが努力し、治水ができたんだよ。
- 孫 川のおかげでよいこともあつたでしょ。福島江用水ふくしまえは信濃川の水利用だね。
- 爺 そうだね。長岡市、見附市、中之島町などで使われていて、7,000ヘクタールもの田畑をうるおしているよ。これをつくつたのはだれか知っているかな。

- 孫 くわばらきゆうえもん桑原久右衛門という人でしょう。江戸時代にみんなが安心して米づくりをするために、信濃川から水をひいて使おうと思いついたんだよ。
- 爺 反対する人もあつたし、昔は機械もなくて人の手にたよって作業するから、工事は大変な苦勞だつたんだよ。でも福島江が完成すると、お米がそれまでよりずっとたくさん収穫できるようになったわけさ。
- 孫 いいことなのに、なんで反対した人たちがいたの。
- 爺 用水をつくるために自分の土地がつぶされるし、作業に協力する余裕がなかつたんだろう。用水がどれくらい役立つかわからない上に、工事そのものも大変なんだからね。でも久右衛門は、この用水が米づくりに必要だと思つていた。その強い思いが伝わつて協力する人も出て、用水が完成したんだよ。一人ひとりに気持ちの変化が生まれ、協力して行動したことが地域を発展に導いたと爺ちゃんは思うよ。

孫 この間、山古志村の中山隧道なかやますいどうのドキュメンタリー映画をみたけれど、16年もかけて自分たちの手で掘ったトンネルは、地域をよくしようと頑張った努力の結晶だね。

爺 まさに地域づくりの原点だね。こうした工事や教育のほかに、産業の発展も地域に重要なことだよ。各地に伝統的な産業があるけれど、地元のたくさんの人たちが守り、育ててきたものが多いよ。小国町の名物の和紙も、雪をつかって白くするという技法で、小国町の自然を活かしたすばらしい技だ。

孫 名物といえば、栃尾市にはみんなが大好きなあぶらげがあるね。

爺 そもそもは、江戸時代の秋葉神社あきばの参拝者のお土産品としてつくられたんだ。おいしくて手軽だから、当時たくさんいた馬の仲買人が酒の肴にして、形も大きくなった。それがまた評判になり、あぶらげ店も増えて杜々の森では毎年1万人の人が集まるあぶらげまつりも開かれている。栃尾の人たちが名物にしたということだね。

復興をめざす力

孫 まち中に入ってきたね。この家はだれの家なの。

爺 連合艦隊司令長官やまもと い そろくだった山本五十六が生まれた家だよ。昭和20年8月に長岡に大空襲があって焼けてしまったんだが、復元したんだよ。

孫 どんな人なの。

爺 日本は日露戦争や第二次世界大戦で戦ったけど、山本五十六は外国の事情に詳しく、国の力をよく知っていたのでアメリカとの戦争には反対だったというのは有名な話だね。

孫 その人は亡くなったの。

爺 昭和18年に戦死したんだ。山本五十六は



河井継之助を尊敬していて、故郷を大切にした人だというよ。子ども時代の勉強部屋には世界地図が貼ってあったそうだが、そのころから世界の中の日本を考えていたんだろうね。

孫 戦争が終わる少し前に、長岡に空襲があったんだね。

爺 1,500人近い人が亡くなったんだ。爺ちゃんはまだ小さい子どもで、親戚の家に行っていたんだが、この空襲のとき60キロも離れた新潟市から長岡の空が赤く見えたと言っているよ。

孫 そのとき昔のまちはなくなったんだね。

爺 残念だね。長岡大花火は、この戦争からの復興と慰霊のために復活したまちおこしのシンボルなんだよ。花火をあげることで、もう一度よいまちをつくろうというみんなの思いを高めたんだよ。

孫 へこたれないで、まちのみんなで頑張るぞ、ということね。

爺 地域の歴史やなりたちを知ることは、新しいことの始まりにもつながるよ。

孫 「まちづくり」に対する思いは今につながっているんだね。来年の花火を見るときには、違って見える気がする。展示会の絵には花火と花火を見ている人たちを描くよ。